



月下美人と萩の寺

指宿でのヤギに満ちた3日間

日本畜産学会が終わって間もなく、日本山羊研究会 & 全国山羊サミットに参加する3名(大石・田端・塚原)は、わずか40人弱しか乗れないプロペラ機に激しく揺られながら、岡山から鹿児島県の温泉の名所である指宿に向かいました。と言う事で、Goat Bulletin 久々のヤギ系ニュースを報告させて頂きます。



28日に日本山羊研究会が開催され、当分野の塚原ようさまが「山羊乳および山羊チーズに対する情報や食味試験が意識と評価価格に与える影響」を発表しました。日本山羊研究会は、何となくヤギが気になる研究者の方々が集まって作られた研究会であり、今回で6回目(3年目)です。規模はまだとても小さい研究会で、特徴としては、なぜか女性の発表者ばかりの研究会です(ヤギ好きさんは女の子が多いんですかね?)。



今回はピンチヒッターで突然の人生初の座長をさせて頂くことになり、個人的には記憶に残る研究会でした。今後もみんなで力を合わせてヤギに関する研究が徐々にでも盛んになっていけばと思います。研究会の後は、初の砂蒸し風呂を経験。妙に圧迫感があり、また顔の周りの虫をよけるのに苦しみましたが、気持ちいい汗をかきました。夕飯の刺身醤油がとても甘くおいしかったのも印象的でした。

29日と30日は全国山羊サミット、10周年となる今回は白水館という名旅館での恐ろしく豪華な大会でした。主催者の鹿児島の方々をはじめ、全国のヤギ

好きさんの気合を感じました。小学生の作文朗読は4回生演習の学生よりも発表がうまく、またトカラ列島のアフリカンな村長のヤギ皮太鼓はリズムカルでした。これだけだと何の



集まりかわかりませんが、とにかくヤギに関わる人たちの会であり、また日本を問わず世界でのヤギを考える会であるため、韓国から参加されている方もいました。豪勢な懇親会にはたくさん有名な焼酎が並び、また二次会ではひたすら焼酎水割りで、この時になって自分が九州に来ていることを改めて実感しました。



2日目には鹿児島大学から連れて来られたトカラヤギや韓国黒ヤギの種雄ヤギの雄姿とその立派なモノを眺め、彼らの香りを嗅ぎながら同じ香りのする沖縄名物の山羊汁をいただきました。

た。また近くの肉用ヤギ生産牧場にも訪れ、様々な顔立ちのヤギたちと交流しました。



ヤギは、用畜としての肉利用や乳利用、皮革利用だけでなく、雑草防除としての利用や情操教育など、日本での頭数は少ないものの様々な目的で利用されています。日本でももう少しメジャーになり、また世界レベルでは頭数の増加が見られるヤギに関心を持つ人が様々な国でもっと増えてくれることを期待しつつ、ブーゲンビリアの花咲く南国指宿から肌寒い京都への岐路につきました。(かざかざ)

全国山羊ネットワーク

<http://www.japangoat.net/>

目次:

～広岡先生の随筆⑤～ 2
これから開発途上国で研究を行なう人のために

タイに行ってきました 3

日本畜産学会第108回 4
大会

放牧に願いを☆ 4

ワインとチーズの会 4

山羊肉試食会 4

お知らせ 5

9月も忙しく過ぎ、気がつくと、もう秋です。20日の高槻農場でのダイショ刈り取りでは、熱中症にかかりそうになり、下旬には『暑さ寒さも彼岸まで』の言葉が恨めしく感じるような暑さの中での学会旅行でしたが、10月に入るととたんに涼しくなりました。放牧地では、蚊が『最後のひと踏ん張り』とばかりに吸血にいそしんでいます。山羊の腰麻痺対策の予防注射だけでなく、皆さんも夕方外に出るときは虫除けを忘れずに。

好評連載「広岡先生の随筆

⑤これから開発途上国で研究を行なう人のために



海外での研究は楽しいものである。日本の退屈な現実から逃避でき、未知の新しい文化や人と接し、驚きの連続である。特に経済的に豊かになった日本人にとっては、国内にいるより経済的・金銭的に恵まれ、豊かな生活を謳歌することができる。これらは、海外での研究に付随する特典である。



しかしこのような海外での楽しい生活とは対照的に、海外での研究は、国内では考えられないさまざまな困難に直面する。研究の立ち上げから現地の研究のコーディネートや遂行の段階で、日本でならばすぐにできると考えられることが、一つ間違えば数週間、あるいは1年以上のオーダーで時間のかかることさえある。また、どのような立場で研究に関わるかによって、大変な問題を抱え込むことさえ生じてくる。

われわれの畜産資源学研究室は、1982年に新しく設置された熱帯農学専攻に属していた。実は、この熱帯農学専攻が設置される際に、当時、多くの若い教員や大学院生が設置に反対し、激しく抵抗したと聞いている。その反対理由の一つが、「日本の帝国主義の片棒をかつぐ」というものであった。当時ノンポリでポスト学生運動世代であった私にとっては、そのような問題にはまったく関心がなく、また畜産資源学に興味を持ったので、何もためらうことなく、大学院での勉強の場として本研究室を選ぶことにした。しかし、実は後にこの問題について大いに考えることとなる。

文化人類学の分野では地域研究が盛んであるが、一般にその地域の人々や社会、文化に影響を与えることがないように、できる限り第三者の立場でその地域と関わることを是としている。日本人がその地域、社会に関われば、当然なんらかの影響を与えてしまうことになり、良くも悪くも予想外の変化をもたらす可能性も考えられる。したがって、そのリスクをできる限り避けるべく、文化人類学の分野では、現地の問題にできるかぎり関わらないことが強く求められる。

一方、農学は応用科学であるため、農学の分野から地域研究に関わろうとする場合、積極的に現地の人々の生活や社会に働きかけ、その地域の農業の発展や人々の生活水準の向上を目的として研究が遂行される場合が多い。すなわち、農学はその学問上の性質から、農学の色彩が強くなればなるほど、その地域の農業や社会、政策と深く関わらざるをえなくなる。そのため、海外、特に開発途上国での研究を志す農学研究者の中には、その地域の問題を何とか解決し、その地域の人々の生活をより良くしてあげたいという使命感、責任感を持つ人が多い。

私は、このような農学からの関わり方や地域に対する考え方に対して、一つの素朴な疑問を持っている。それはこのような関わり方・考え方の背景には、われわれの生活や価値観がその地域の人々よりもまさっているという前提がある点である。しかし、われわれの価値観が常に正しいと言いきれるのであろうか。また、われわれの生活の方がその地域の人々の生活よりも良いと信じて、現地の人々の生活をそれに近づけることが本当に彼らの幸せに結びつくことなのであろうか。人々の生活がわれわれの生活に近づくにつれて、当然、われわれの持っているものに対するニーズが高まり、結局日本の資本がその地域に入って彼らのニーズを満たすようになる。このことは、よくよく考えれば、熱帯農学専攻が設置される際に当時の大学院生たちが反対していた「日本帝国主義の片棒をかついでいる」ことになっているのではないだろうか。このようなトラウマのために、私はこれまでどうしてもその地域の人々のためという動機で研究する気にはなれなかった。

以上の理由から、これまで私が行なってきた開発途上国での研究は常に現地の研究者と共同での研究であった。現地の研究パートナーが主体となって研究を行ない、できる限り研究計画やその成果の普及には関わらないことにした。関わり方としては、研究パートナーの依頼によるデータの分析や生物学的、純粋な畜産学的な視点からの研究に終始するように意図的に心掛けてきた。すなわち、研究に関する政策的な意思決定は研究パートナーに委ね、私は技術的なサポート役として研究に関わってきた。もちろん、誤解のないように言っておくが、私の研究が結果としてその地域の人々の役に立てばそれにまさる幸せはないと思っている。

私の考え方、関わり方が正しいか否かは今のところ判断できず、将来何らかの答えが得られたら良いと考えている。ただ、これから開発途上国で研究しようとしている若い研究者に今の段階で言えることは、開発途上国の研究はそれほど単純ではなく、純粋な科学以外のさまざまな複雑な問題が関係しているということである。そのような問題に直面するたびに、しっかり回りを見て的確な判断をしてほしいと願っている。現地の問題を最も良く知っているのは現地の研究者であり、現地の人々であるという事実をしっかり肝に銘じておく必要がある。

広岡博之

「タイに行ってきました。」

ネパール・タイ訪問から2ヶ月が過ぎ去りました。その間に総理大臣が変わったり、女性が土俵に上がったり、色々な出来事がありました。僕の旅の記憶も相当怪しくなってきたところですが、実は、まだこのシリーズは続いています。



タイの在来種牛……タイには在来種としてケダー牛と呼ばれる牛が古来より飼われてきました。今回調査に向かったタイ南部では、ケダー牛は闘牛の目的に利用されてきた一方で、外来の牛と比べ小型であるために生産という面で経済的ではないと言われてきました。その事から、ケダー牛の産肉能力を的確に把握すること、また、外来種との交雑による産肉能力の向上を調査すること、を目的として実際に現地で試験し調べてみよう、というのが今回のタイにおけるプロジェクトであり、現地の先生方とディスカッションしてまいりました。

タイ南部……今回の調査地であるタイの南端は、イスラム系独立主義の過激派によるテロが頻発しており、とても治安が良いとは言えません。あまりに数多くテロがあるために、小規模な爆発なんかは皆あまり意に介さない様子で、僕がテレビに映っている燃え尽きたパトカーを指差して、「あれどこの映像？」と現地の学生に聞いてみると「ああ、あれ隣の街、警察が3人死んだって」との返答が。えええー(@__@)隣町で死亡事件あったのにどんだけの落ち着きー？なんでも慣れは怖いもんですね。

プリンスオブソンクラー大学 (PSU)……タイに滞在中、僕らが寝泊りをしていたのがプリンスオブソンクラーというオシャレな名前の大学です。何と言っても僕が驚いたのは、この大学の広大な敷地。京大とか日本の大学の比じゃありません。大学内は車やバイクがないと移動は大変です。中に学生寮や職員宿舎も多くあり、セブンイレブンやスーパーも何軒か見かけましたし、もう一種の街ですね。夕方にもなると大学内にある貯水池の周りは何百人というジョギンガーに埋め尽くされており、皆走りにくそうでした。タイでは大学生でも中学、高校生のような制服を着ていて、白シャツに黒パンツを履いた学生達は実年齢より若々しく見えます。PSUのワンウイサ先生のご好意で、学生実験に参加させてもらった際に、現地の学生達と触れ合って友達になり、近くの店でトムヤムクンをご馳走になったりしました。皆、英語は不得意みたいでしたが、ファンキーな楽しい子達ばかりで、なんとか意思疎通もでき、楽しい時間を過ごせました。



タイ料理……日本でもタイ料理屋はみかけますが、実際あまり食べたことはありませんでした。なので、かなり楽しみにして行っただすが、実際に食べてみると予想以上の美味しさ！ 学生食堂は露店のあつまりのようで、色んな種類の店が何十件と所狭しと並んでいます。よくあるスタイルなのが、中央にご飯を盛ってもらい、そのサイドに2品か3品のおかずを指差してチョイスして盛ってもらう物。隠れ井ハンターの僕としては、このスタイルは大のお気に入りです、おかずも全て口に合う美味な物ばかりでした。食べ物はフルーツ以外ほぼ全て激辛でしたが、それがさらに食欲をそそって、「熱いときに熱くて辛いものを食べる」良さというものを初めて認識しました。あと、面白かったのがタイ風カキ氷。氷の上にイチゴシロップや練乳をかけるのは日本と同じですが、これにかなりのトッピングをします。フルーツやグミみたいな物もあれば、茶そばのような緑色の麺を入れたり、細かくちぎったパンの耳まで入っていました。これが意外とイケる！ 長命さんもパン屋からタダ同然でもらえるパン耳と水道水から作れる氷で2007年を乗り切ってみませんか？



ドリアン……日本でも臭い食べ物として有名なドリアン。本場もんを初めてたべてきました。確かに臭いです。しいて言えば腐った玉ねぎと腐ったパイナップルと都市ガスの混ざり合ったような臭いです。でも……美味しい！ バニラのような濃厚な甘み。ココナツミルク混ぜ合わせて食べてみると至極の味わいでした。現地の人でも食べられない人もいますが、これは是非一度食べてみてください。口に入れるまでが大変ですが、頑張る価値アリですよ。食後5日間お腹壊してトイレにこもりっきりだったのは多分ドリアンのせいでは無いと思っています。

総括……今回は、旅行ではなく研究調査という名目でタイを訪問し、またそれも外出のままならぬ地域の大学施設内で寝泊りしていたので、タイらしい雰囲気や風景は味わうことができませんでした。しかし、現地の先生達とのディスカッションに参加したり、学生達と知り合えたり、研究施設や附属牧場の見る事ができたり、旅行では味わう事のできない貴重な体験をする事ができました。同じ海外渡航でも、「遊びに行く」と「目的(仕事)を持って行く」というのでは重みも違うし、風景の見え方も変わります。この渡航で得た経験を糧にまた一段ステップアップしたいものですね。とにかく早く平和になって m(____)m



残念ながら今回が本当の最終回です。もうネタ出し切りました。乾いた雑巾です。永らくの御愛眼本当にありがとうございました。またいつかGoat Bulletin紙上でお会いしましょう。
(椎野特派員)



日本畜産学会第108回大会

9月26日～27日に、日本畜産学会第108回大会が岡山大学津島キャンパスで行われ、当研究室からは、以下の5題が発表されました。

熊谷先生「核酸関連物質の添加が、粗飼料給与条件下の緬羊の第一胃発酵と消化性に及ぼす影響」

大石先生「和牛繁殖生産における繁殖雌牛の供用年数と繁殖率の変化が生産効率に及ぼす影響」

長命さん「肉用牛経営の経営意識が枝肉成績に及ぼす影響」

田端さん「粗飼料生産を伴う繁殖肥育一貫経営における窒

素、リン、カリウム利用状況の把握」

塚原さん「カチャン山羊とその交雑種における成熟体重と成熟速度の関係」

今学会では、公開シンポジウムで紹介された蒜山酪農農業協同組合からジャージー牛乳製品が提供されて、牛乳やヨーグルトなどおいしくいただきました。岡山の名勝『後楽園』近くで催された懇親会では、中秋の名月と岡山城を眺めながら、岡山産牛肉のローストビーフや豚肉、郷土料理の祭り寿司に加え、名産「雄町米」を使った日本酒が試飲会のごとく振舞われ、5千円の懇親会費にも充分満足、幸せいっぱい腹いっぱいでした。

ワインとチーズの会

7月に北海道で買った花畑牧場の「トム・チーズ」と「カチョカパロ」



を、熊谷先生とみゆきさんから差し入れていただいたワインで味わいました！熊谷先生が高知での関西畜産学会のお土産に買って来てくださった「龍馬節（鯉生節）」でトマトソースの Pasta とサラダも出来上がり、ちょっとした夕食会になりました。チーズもワインも Pasta もあつという間に胃袋の中へ、記憶と一緒に消えて…(^_^)おいしかったですね。

放牧に願いを☆～Amazing Grazing～

Last Episode

週に1回、朝10時～夕方4時頃まで放牧を行っている。僕はすぐに周りの人の2度見にさらされるのに慣れ、ドラとウラドラも最初は放牧を嫌がっていたが、すぐに慣れてくれてスムーズに放牧地に移動してくれるようになった。Episode2にも書いたとおり、初めは柵にくっついてる草を食べたり、二頭同時に立ち上がった結果、ふたりで抱き合いながら木の葉を食べるという究極のコンビプレーを見せていたが、放牧を重ねるにつれて、だんだん下草を食べられるようになり、だいぶ放牧家畜らしくなってきた。

以前に朝



の情報番組でヤギがある島の草を食べつくす「白い悪魔」と紹介されていたそうだが、ドラとウラドラもその片鱗を見せている。上記のように週に一回日中のみの放牧であるが、ドラとウラドラの採食による除草力は凄まじく、放牧地はEpisode1の除草剤がまかれたところよりも草量が抑えられており、除草剤よりも彼らの方が高い除草効果を発揮していることを僕らに見せつけている。除草、愛玩動物として一家に一匹ヤギなんていかがでしょうかとお勧めできるくらいであろう。

放牧試験を約半年間やってきて、いろいろ経験することができ、勉強になった。そしてさらにヤギのおもしろさ、かわいらしさを知ることができた。まだ放牧試験は継続されるが、今後も勉強とともにヤギの魅力を発見していきたいと思う。

日本でヤギ&放牧がもっと普及しますように☆
(K)

山羊肉試食会

沖縄旅行に行かれた広岡先生のご子息から、山羊肉をお土産に頂いたので、21日(金)に研究室で試食会を開きました。頂いたお肉を解凍してみると、モツや骨も入っていて、沖縄では山羊肉もモツもごちゃ混ぜで販売しているのかと少しびっくり。沖縄風の『ヤギ汁(モツ入り)』は、初心者にはおいがキツイという前評判だったので、フィリピンで日本人にもよく食べられていた『カルデレータ(山羊肉と野菜のトマト煮込み)』を作ってみました。出来上がった料理にみんなもおっかなびっくり。全く手をつけないチームと美味しく食べれたチームにはっきり分かれました。手をつけなかった人たちは、おいだけでゴメンナサイで、別に用意した焼きうどんと肉じゃがの会になっていました。美味しく食べれたチームは、おいは気にならなかったようで、用意したカルデレータ二皿をぺろりと平らげてくれました。面白いことに山羊肉は特に女の子たちに評判が良く、先生曰く「男性陣は山羊のオスのおいを感じるんやないか？」と。これも研究課題になるかもしれませんね～
(ようこ)



9月12日(水)毎年恒例の牧場懇親会が催されました。学部生の牧場実習に併せて動物系研究室が大集合！今年も厚手のジュシーな焼肉に人気集中でした。

Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも受付中です。下記のアドレスまで送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

いよいよ皆さんお待ちかね(?)の後期ゼミが始まります。今月は、
10月4日(木) 田島(文献紹介)・椎野(修士論文計画発表)
10月11日(木) 菊原(文献紹介)・児嶋(4回生演習)
10月18日(木) 西尾(文献紹介)・竹内(文献紹介)
10月25日(木) 児嶋(文献紹介)・塚原(文献紹介)
の予定です。時間は前期同様、10:30~12:00、教室はE-503です。変更等の案内にご注意下さい。
ゼミ係

今月の研究者会議

今月の研究者会議は、修士2年を対象とした修論中間検討会が行われます。日程は10月17日(水)西尾、塚原、23日(水)菊原、金島の予定です。時間は10:30~13:00、教室はE-503です。
ゼミ係

今月のお誕生日会

今月のお誕生日さんは、広岡先生(10月13日)です。お題は、『クリームのあるケーキ』です。日程は15日(月)の午後3時頃からを予定しています。みなさんどうぞお楽しみに！ イベント係



9月中旬に院試の結果発表があり、畜産資源には2名の合格者が出ました！先月号に投稿してくれた児嶋君も涼しい顔して合格でした。おめでとう！

今年も四明会ソフトボールの季節がやってきました。動物系研究室は『チームメガネッシュ』で参戦登録済みです。皆さん、時間の許す限り参加して、優勝目指し頑張りましょう！
ソフトボール係

2007年 10月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
9/30 金島・児嶋	1	2	3 学生実験	4 学生実験 熊谷・金島・レニン 体重測定・予防注射	5	6
7	8	9	10	11 田端・西尾・菊原 体重測定	12	13
14	15	16	17	18 竹内・椎野・児嶋 体重測定・予防注射	19	20
21	22	23	24	25 大石・塚原 体重測定	26	27
28	29	30	31	11/1	2	3

編集後記 少し涼しくなってきた、梨や栗、マツタケなどなど秋の味覚が目につくようになりました。食欲の秋ですね～。ダイショの刈り取りに行った高槻農場では、梨とブドウをお土産に頂き、学会ツアーでは『ままかり』(岡山)と『さつま揚げ』、『きびなごのお刺身』(鹿児島)を堪能してきました。食べてばかりじゃありません。指宿の温泉と砂蒸し風呂では脳みそがとろけてしまいそうになるくらい！気持ちよか～。秋はスポーツの秋でもあります。研究室ではBilly's Boot Camp熱が再燃しそうな気配です……。 (ようこ)